

＜対策のポイント＞

海洋環境の変化を踏まえた高度な資源評価のため、新たな技術を活用した調査船調査、市場調査、漁船活用調査等を実施し、資源調査・評価の体制を強化することにより、**最大持続生産量（MSY）をベースとする資源評価の精度向上、資源の水準及び動向の判断、不漁等を含む資源変動に対する海洋環境要因の把握**を推進します。

＜政策目標＞

資源評価の着実な実施と高度化（MSYをベースとする資源評価対象資源数）（38資源〔令和6年度〕→43資源〔令和10年度まで〕）等

＜事業の内容＞

1. データの収集及び資源調査

資源評価対象種の**資源評価の高度化及び更なる精度向上**のため、都道府県水産試験研究機関及び大学等とも連携し、新たな技術を活用した**調査船調査**、画像処理技術も活用した**市場調査**、**漁船活用調査等**を行い、資源水準及び資源動向の判断並びにMSYをベースとする資源評価の更なる精度向上に必要な**生物学的情報、再生産情報、年齢別の漁獲情報等**を収集し、資源評価等を実施します。

2. 海洋環境要因の把握（不漁要因の解明等）

スルメイカ、サンマ、サケ等の不漁やブリ、ズワイガニ等の分布・回遊の変化を踏まえ、調査船やプランクトンカメラ等を利用し、**分布域の変化、産卵場における稚魚の発生状況、水温、海流及び餌料環境等の情報を収集し、海洋環境と資源変動及び漁場形成との関係解明**に取り組めます。また、水産資源を取り巻く**生態系の特徴や動向を俯瞰的に評価し、海洋環境の変動や種間関係等を含めたより高度な資源評価の実装**に取り組めます。

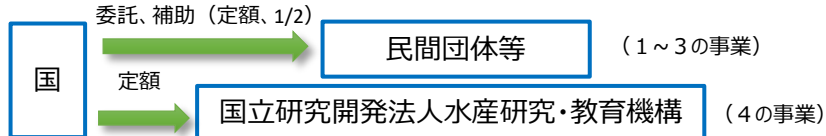
3. 資源評価の精度向上、理解促進等

外部有識者によるピアレビュー及び二国間・多国間の枠組みを活用した**研究連携を推進し、資源評価の高度化及び更なる精度向上**に取り組めます。また、**資源評価の方法や評価結果の情報提供**を通じて、理解促進を図ります。

4. （国研）水産研究・教育機構の漁業調査船の代船建造

漁業調査船「蒼鷹丸」について、高まる**資源調査のニーズへの対応**と様々な海域や気象・海象下における**確実かつ効率的な調査の遂行**のため、代船を建造します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

水産研究・教育機構、都道府県、大学等が共同で実施

○データの収集・資源調査
・国、都道府県が連携して**調査船調査**や**漁獲報告**により情報を収集
・**市場調査**や**漁船活用調査等**を充実させ、漁業者等からの情報を収集
・NPFC等、**我が国の漁業に強く関係する国際資源管理種**の資源や生態の情報を収集
・水産資源に変動を及ぼす海洋環境の調査 等

○漁業調査船「蒼鷹丸」の代船建造
・高まる資源調査のニーズへの対応
・様々な海域や気象・海象下における**確実かつ効率的な調査の遂行**
・建造から29年経過し、安全な運行と調査の実施に支障



MSYをベースとする資源評価

○MSY水準に基づく資源状態の判断
○生物学許容漁獲量（ABC）の算定等

資源水準・資源動向による資源評価

○資源量指標値等の分析
○資源水準・資源動向の判断

国際資源の資源評価

○調査船調査の結果も含めた資源水準・資源動向の解析

○資源評価結果の活用

・資源状態、ABCといった**MSYをベースとする資源評価**を提供
・資源水準・動向の情報を地域に提供し、**自主的な取組である資源管理協定等**に活用
・我が国の漁業に係る**公海域などの国際資源管理の強化**

【お問い合わせ先】

（1～3の事業）水産庁漁場資源課（03-6744-2377）
（4の事業）研究指導課（03-6744-2370）